

一橋論叢第九十八巻総目次

論 説

経済哲学の現在	塩野 谷 祐 一	一 号	一 頁	通 頁
—— 左右田・杉村とそれ以後 ——				一
アメリカ一九三〇年代の社会運動と知識人の問題(上)	矢 澤 修 次 郎	一	二〇	二〇
経済面からみた年金受給世帯の生活実態(Ⅱ)	高 山 憲 之 有 田 富 美 子	一	二〇	二〇
デッドロック令夫人の秘密	内 田 正 子	一	二〇	二〇
—— デイクンズ『荒涼館』における非嫡出子の役割について ——				二〇
ビジン・クレオール研究略史	林 正 寛	一	二〇	二〇
日本における地方分権	岩 崎 美 紀 子	一	二五	二五
—— モデルによる分析 ——				二五
『資本論』の分析・上昇法	松 石 勝 彦	二	一	二七
資源リサイクルをめぐる経済原理と政策原理	寺 西 俊 一	二	二六	二七
インフレ理論の系譜とその限界	福 田 泰 雄	二	二〇	二六
—— デイマンド・ブル対コスト・プッシュ ——				二六

経済地理学と資本主義的公共政策	水岡不二雄	二	六	二五
社会資本および公共財の理論分析	明石博行	二	七	二九
——政治経済学批判体系の現代的展開のために——				
抽象的人間労働の特殊歴史的性格について	小島彰	二	一五	二六
——頭川氏における生きた労働と抽象的人間労働——				
価値形態と社会的労働	宮沢俊郎	二	二六	二七
利潤率低下法則の論証	石倉雅男	二	二八	二九
——ツガン・バラノフスキーのマルクス批判の検討——				
電気事業の問題点	井出野栄吉	三	一	三一
アメリカ一九三〇年代の社会運動と知識人の問題(下)	矢澤修次郎	三	二〇	二〇
明治期地方知識人の経済思想	佐藤正広	三	二六	二七
——加工統計「越中生産」の推計方法と精度の検討——				
民間説話にみられる根源相	萩原力	三	二七	二七
——北米インディアンの場合——				
軍拡か福祉か	小笠原欣幸	三	二九	四三
——一九五一年、イギリス労働党政府の選択——				
「公共的差止訴訟」の基本的系統構造	川嶋四郎	三	二二	四四
——「公共的差止訴訟」の研究・序説——				
ダフトによるタスク分類と情報システムの適合性	上田泰	三	二九	四九
感覺的確信の弁証法	田中保敏	三	一四	四七

領域管轄権と排他的経済水域	桑原輝路	四	四九
日本におけるラングストン・ヒューズ	斎藤忠利	四	五八
——その紹介の経緯について——			
租税と厚生	田近栄治	四	五三
——厚生測定方法の展望——			
言語とヘゲモニー	槽谷啓介	四	六一
有限責任原則と親子会社関係	野田博	四	五九
社会科学系索引誌の編集作業の機械化とデータベ			
ス管理	鷹野邦人	四	一〇一
——経済学文献季報の場合——			
容教士人馮琦	葛谷登	四	一七
商品交換と商品の物神性	田島慶吾	四	一三
福田平先生——「人と学問」	橋本正博	五	一
行政犯及び経済犯における違法性の認識	神山敏雄	五	七
目的的行为概念と不作爲	都築廣巳	五	七
——忘却犯との関係において——			
被告人の予防拘禁を合憲とするサラリーノ判決をめぐって	福田雅章	五	三
カリフォルニア最高裁判所首席判事の再任拒否と死刑			
問題	村井敏邦	五	六
秘密漏泄罪と証言拒否権	上口裕	五	八

身分犯概念について……………	泉健子	五	六八
——表見的身分犯との関連——			
「予防的ルール」とヘビアス・コーパス……………	宮城啓子	五	二〇八
いわゆる乞食詐欺と寄附詐欺における「無意識の自己 加害」について……………	菊池京子	五	二七九
——「処分行為の自由」をめぐる問題性——			
過失共同正犯の理論的基礎……………	橋本正博	五	二四四
——「行為支配」と過失共働——			
農工間「不等価交換」論について……………	中兼和津次	六	一
——中国における「缺状価格差」論の一考察——			
辛亥革命後、旧奉天省における官有地の払い下げにつ いて……………	江夏由樹	六	二二三
帳審と溢澤栄……………	中井英基	六	四三
——日中近代企業者比較論——			
インド藩王国における知行政策、一七二〇〜一八二〇……………	佐藤正哲	六	五九
一九世紀初頭北ベンガルの流通と手工業……………	谷口晋吉	六	七九
——ブキャナン報告に基づいて——			
一九二〇—三〇年代のインドネシアの国際収—支植民地 的流出とその政治経済的背景……………	内藤能房	六	一〇五
植民地期ジャワにおける土地利用の変遷……………	大木昌	六	二二三

大恐慌期フィリピン糖業の寡占的構造	永野善子	六	一四二	六六七
一九世紀中葉エジプトにおけるさまざまな土地範疇	加藤博	六	一五七	一〇〇三
——リズカ地について——				

研究ノート

ペイトン会計学説の性格	村田英治	三	一六一	四七一
——学説の変遷とその意味——				
フランス不能犯判例のあたらしい動き	青木人志	五	一五九	八二
——破棄院一九八六年一月一六日判決について——				

年譜・著作目録

故種瀬茂先生略年譜		二	一四〇	三三六
故種瀬茂先生主要著作目録		二	一七四	三三〇
福田平名誉教授略年譜		五	一六七	八六
福田平名誉教授著作目録		五	一七一	八三
故深沢宏教授経歴年譜		六	一七五	一〇一一
故深沢宏教授著作目録		六	一八二	一〇一四

彙報

博士論文要旨および審査要旨(山本隆基)		一	三三	三三
---------------------	--	---	----	----